



# 臨床腫瘍センターだより



第14号(2009年6月10日)



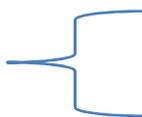
## 抗がん剤の血管外漏出にご注意ください

### 抗がん剤による血管内外の障害

抗がん剤が血管外に漏れた場合、皮下や皮下組織を障害し後遺症を残してしまうことがあります。



障害の原因



- ◆抗がん剤の種類
- ◆溶液のpH
- ◆浸透圧
- ◆薬剤の濃度
- ◆漏出量



抗がん剤の場合、血管外漏出直後は他の薬剤と同様に、無症状あるいは軽い発赤・腫れ・痛みの皮膚症状が現れます。しかし、数時間～数日後に症状が増悪し「水疱→潰瘍→壊死形成へ」と移行することがあります。重篤化すると瘢痕やケロイドになり外科的処置が必要になることもあるため、血管外漏出は予防と発生時の迅速な対応が重要です。

### 血管外漏出を防ぐために

外来化学療法センターでは、血管外漏出による事故を防ぐため以下のことに注意しています。

- ①投与される薬剤の組織侵襲を把握する
- ②手首や肘関節は避ける
- ③採血後は同一血管の下流からのルート挿入は避ける
- ④加齢・糖尿病・高血圧・低たんぱく・頻回の治療などは血管をもろくするので、より注意が必要
- ⑤投与中のボトル交換やトイレ移動には、頻回に逆血の確認、滴下状態、痛み・腫れ・皮膚の状態を観察する
- ⑥患者さんに痛みなどを我慢させず、痛みの疑いのある時は差し替える
- ⑦壊死を起こしやすい抗がん剤の末梢血管からの投与は、輸液ポンプでの加圧を避け自然滴下での観察を心掛ける
- ⑧血管外漏出の可能性が高い血管や、長期抗がん剤投与の患者は早期にCVポートの挿入を検討してもらう



良好な状態の血管やCVポートの使用でも、血管外漏出が100%防げるわけではありません。患者さんの動きや針の固定の状態など、様々な要因で血管外漏出は起こります。

### 患者さんへの説明と同意書

抗がん剤治療中に起こった血管外漏出による皮膚損傷の診療は、事前の説明がないと患者さんのご家族から納得が得られない場合もあります。そこで、

#### 主治医の先生方へ

外来化学療法センターでは、初回治療の患者さん全員に看護師が血管外漏出の注意を説明しております。主治医の先生からも、治療開始時に患者さんのご家族から同意書を取得する際、抗がん剤の血管外漏出の組織侵襲の可能性や皮膚科受診の可能性を併せて説明していただきますようお願いいたします。レジメンシステムでのオーダーの際に印刷される同意書にも血管外漏出について記載がありますのでご活用ください。

※外来化学療法センターにおける血管外漏出の対応は、化学療法マニュアル(35項)に記載されています。ご不明な点は外来化学療法センター(内線3530)までお問い合わせください。





## 外来化学療法センターよりお願い

退院前の患者さんで外来化学療法センターを見学希望の場合は、事前に外来化学療法センター（内線3530）へご連絡の上、**見学は10時前又は15時以降**にお願いいたします。

<5月の外来化学療法センター利用状況> 利用者数 207名

消化器外科Ⅰ	36	消化器内科	20
消化器外科Ⅱ	16	婦人科	19
乳腺外科	55	泌尿器科	2
呼吸器科	21	血液内科	6
呼吸器外科	1	小児科	28
皮膚科	3	合計	207



## お知らせ

### Cancer Board開催案内

消化器 6/11（木） 19時30分  
 骨軟部 6/15（月） 18時30分  
 悪性リンパ腫 6/29（月） 19時30分

医療従事者を対象に、各臓器別に診療科横断的な腫瘍カンファランスを定期的で開催しております。医療従事者であればどなたでも出席できます。

### 臨床腫瘍セミナー開催案内

演題：「精神腫瘍学総論 ～がんと心について～」  
 講師：国立がんセンター中央病院  
 精神腫瘍科 清水 研 先生  
 日時：2009/6/16（火） 18時  
 場所：第二臨床講義室



※大学院生は共通必修科目（規程の8）に該当します。

### 掲示版

外来化学療法レジメンシステムのマスター登録については、各診療科のご協力をいただき、承認が終了いたしました。レジメンシステムでのオーダーが可能となりましたので、オーダー入力いただきますようお願いいたします。

文責：臨床腫瘍センター <問い合わせ先>内線：3160 E-mail：ys1101@fmu.ac.jp 担当：阪場